

B—1 洗淨剤の洗淨力試験についての一考察 (第4報) 人工汚染布法と天然汚垢布法 の不一致の一因

ライオン油脂 藤井 徹也
○西田 敦
古川 三郎
木下 優子

1. 洗淨力の試験法としてはカーボンブラックを主体にした人工汚染布法が広く採用されてはいるが、吾々はこの方法では実際洗濯の結果と一致しない場合のあることを認め、より実際に適した方法として試験布に天然汚垢布を使用している。(日本家政学会第12回, 第13回, 第15回総会にて報告) 今回は洗剤成分及び汚垢成分の両面から天然汚垢布法と人工汚染布法の比較検討を行なった。

2. 3種の洗剤(ABS 25% 芒硝 75%, ABS 25% トリポリリン酸ソーダ 25% 芒硝 50%, 及び市販洗剤)を用いて8種の天然汚垢布と人工汚染布(油化学協会法)につき洗淨力試験を行ない、あわせて天然汚垢布の成分につき抽出その他の方法により検索した。

3. 各種天然汚垢布の成分は著しく異なっているが、何れの汚垢布の場合でもトリポリリン酸ソーダの効果は明確に現れており、人工汚染布法の結果とは著しく相異していた。即ち天然汚垢布法と人工汚染布法による結果が一致しない原因の一つとしてトリポリリン酸ソーダが関連していることを認め、汚垢成分の差の影響は比較的小さいことを知った。なお天然汚垢布の肉眼による判定結果と、石油エーテル抽出法に基く油分除去率の関係は比較的よく一致していた。